

## 知ってとくとく 獣害対策（イノシシ編）

～集落ぐるみで「引き寄せない」、「入らせない」、「捕まえる」を行って  
イノシシに勝てる集落になろう！～

小出哲哉（新城設楽農林水産事務所農業改良普及課）

【平成23年9月20日掲載】

### 【要約】

イノシシの効果的な被害対策は「地域ぐるみの環境整備」、「囲い柵管理」、「効果的な捕獲」の3つである。1つ目の地域ぐるみの環境整備とは、イノシシの誘引防止のため、農作物残渣・生ゴミなどを放置しないようにすること。2つ目の囲い柵管理とは、侵入防止のため、ワイヤーメッシュや電気柵の設置および草刈り等の維持管理を行なうこと。3つ目の効果的な捕獲とは、被害をおよぼしている群れをねらって捕獲することである。これら3つを積み重ねることによって効果を発揮することが出来る。

### 1 地域ぐるみの環境整備

#### (1) イノシシを引き寄せない対策

畑の隅に捨てられた野菜くずや水稻収穫後のヒコバエなどはイノシシを集落や畑に引き寄せてしまうエサとなる。イノシシがそれらを食べていれば自分の畑には来ないと思うのは間違いである。次には畑を荒らすようになるので野菜くずの埋却や収穫後のヒコバエのすき込みなどにより、イノシシのエサとなるようなものは地域ぐるみで集落から無くすことが大切である。

#### (2) 緩衝帯を作る

間伐や下草刈りをしてイノシシが隠れることができる場所を減らす。柵の外側には点検用の通路を作る。隠れ場所があると人慣れしたイノシシを育てることになるので、隠れ場所を無くすことが大切である（図1）。

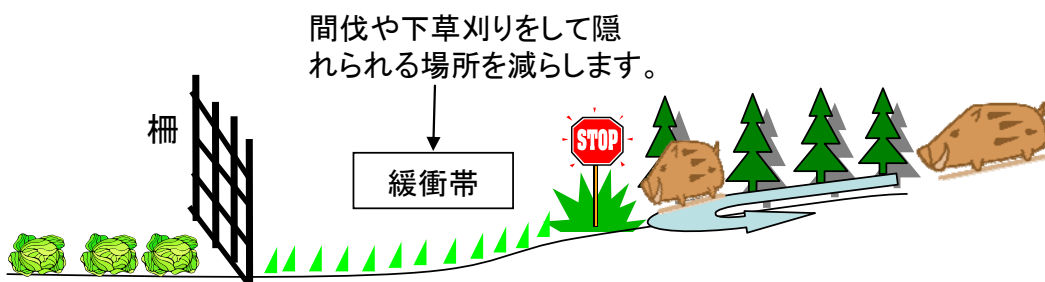


図1 柵の外には通路や緩衝帯をつくる

### 2 囲い柵管理

#### (1) トタン柵設置のポイント

- ・トタン柵は作物を見せない目隠し効果をねらう。
- ・中の作物を見せないようにするのが重要であるため、コーナーなどのつなぎ目の隙間は無くす(図2)。

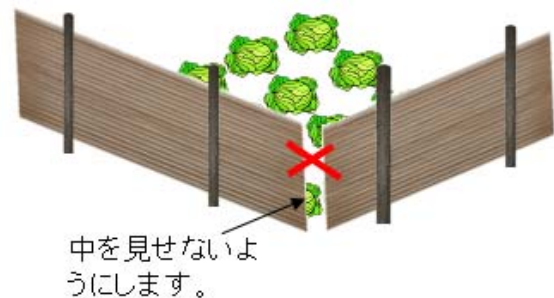
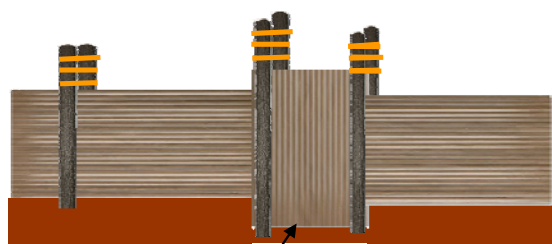


図2 トタン柵は隙間を無くす

- 5 cm 程度の間隙であれば鼻で持ち上げて侵入するので、地際に隙間を作らないようにする (図3)。
- 持ち上げられないようにトタンの上部はしっかり押さえる。



くぼみもトタンでぴったりふさぎます。

図3 地際部に注意

(2) ネット柵設置のポイント

- ネットは絡みつきやすく、金網よりは嫌がる効果は高い。
- 起伏のある場所や斜面の多い場所では設置がしやすい利点がある。
- 中の作物が見えるのが弱点である。強行突破されてしまうことがある。
- 目合いは10cm以下とし、裾は長くして杭などで固定する。

(3) ワイヤメッシュ柵設置のポイント

- 風に強い、景観を損ねにくい利点があるが、中の作物が見えるのが弱点である。
- 上部30cmを外側へ20度(10cm)折り曲げる。
- 折り返しがないと、ジャンプして入られることがあるので、上部を少し折り返しておく。
- 地際のケアが大切、持ち上げられないように注意する。
- 固定用の杭はまっすぐではなく斜め前に45度に打つようにする (図4)。
- 目合いは10cm以下にする。

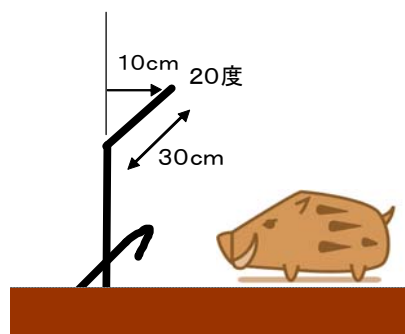


図4 杭は45度に打つ

(4) 電気柵設置のポイント

- 感電する部位は鼻と腹だけである。
- イノシシは目の前の物を鼻で触って確かめるため、その習性を利用して、感電させる。
- ワイヤは2段で、高さは地面から20cmと40cmとする。

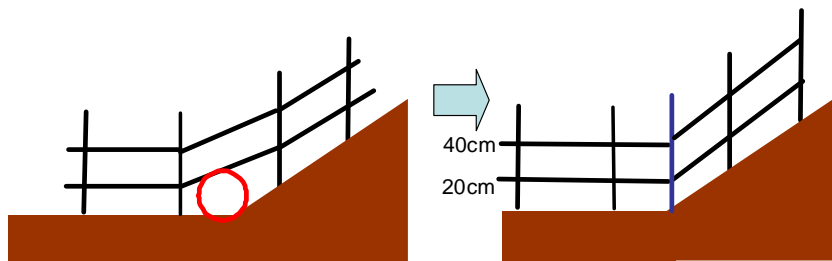


図5 角度が変わるところは杭を入れて常に20cmにする

草に触ると漏電するので、草刈りを徹底する。

- 角度の変わる場所や凸凹がある場合は、隙間が大きくなるので支柱を入れて常に20cmになるようにする (図5、6)。

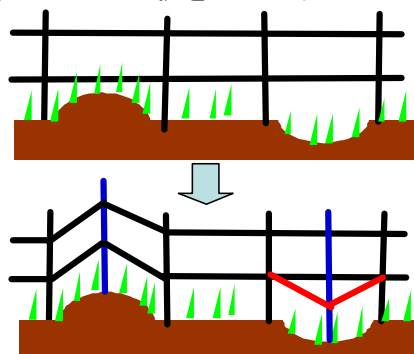


図6 凸凹は杭を入れて常に20cmにする

- ・イノシシは最初に支柱やガイシを触るので支柱は作物側、ガイシはイノシシ側にする。
- ・舗装道路から50cm以上離して設置する(図7)。また、防草シートは電気柵の直下のみに設置する。舗装道路や防草シートはアースがうまく取れず、電流の流れが悪いためである。
- ・人への感電防止の表示をする。

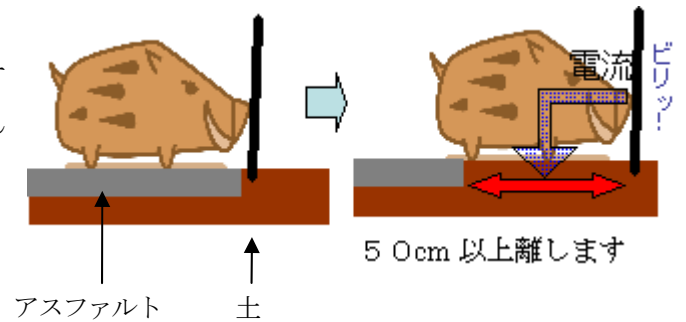


図7 アスファルトからは50cm以上離す

### (5) 柵設置の共通ポイント

- ・イノシシは見通しのよいところが嫌いなため、柵の周辺の草を刈払い、イノシシが安心できない場所にする。
- ・ほ場の4面すべてを囲う。コの字型はダメ、道路側、山側、川側すべて囲う。
- ・突破された場合は、複数の柵を組合わせて突破されないように強化する。

### 3 効果的な捕獲

- ・環境整備と囲い柵管理の積み重ねができれば、捕獲はその最後の対策である。
- ・被害を引起す群れ(加害群)と引起さない群れ(非加害群)が同時に存在しているが、加害群をねらって捕獲する。特に加害群を群れごと獲ることが重要である。
- ・捕獲用の檻の設置方法等くわしくは

**知ってとくとく箱ワナの設置とエサやり法(イノシシ)**

[http://www.pref.aichi.jp/cmsfiles/contents/0000030/30926/gijyutu\\_inosisi2.pdf](http://www.pref.aichi.jp/cmsfiles/contents/0000030/30926/gijyutu_inosisi2.pdf)

<http://www.pref.aichi.jp/cmsfiles/contents/0000034/34817/shittetokutokuhakowana.pdf>  
を参照する。